http://www.ne.jp/asahi/chonan/kenkyu/　　email ： ch0330@support.email.ne.jp

全国長南会通信 45号

事務局 ：300-0301 茨城県稲敷郡阿見町青宿 930　長南秀則 TEL/FAX　xxxxxx

発行日 平成 25 年 8 月 30 日

べに花フェスティバル

長南町/長福寿寺

第 29 回、長南町紅花まつりが、6 月 14 日から 6 月 25 日まで開催され。6 月 23 日、日曜日の大祭の日に、青宿から 4 名で出かけて行った。梅雨に入り、不安定な天候と台風の影響で、前日は雷雨になり、大祭の日の天候が心配されたが、当日は朝から晴天となり、関係者は胸をなでおろしたことだろうと思う。

会場の長福寿寺に到着すると、これまではなかった大きな石の像が本堂の入り口に 1 対建てられてあった。境内には、テントの出店で、紅花の小物や町の名産品などが売られており、また、裏手の方では、ザリガニ釣りや紅花そばの流しそうめんなども行われており、親子連れ客などで大変賑わっていた。

後列左から森川育てる会会長、照光、武
前列左から秀則、清、葛岡長南町副町長

桓武天皇勅願寺
長福寿寺

長福寿寺は、およそ 1200 年の昔、延暦 17 年（798）に桓武天皇の勅願により、伝教大師最澄〔天台宗の宗祖〕によって創建され、文和年中（1353）比叡山恵光坊義憲僧正によって再営された由緒ある大古刹である。

中世においては日本三大学問所（談義所＝僧侶の大学）として寺院子弟の教育にあたり、西に比叡山、東に三途台（当時は東叡山と称した）ありと称せられ、実に関東天台の要をなしていた

また、上総・下総・安房の房総三国（現在の千葉県全域）における大本山として末寺 308 ヶ寺を有し、各寺院を統理していた。

（長福寿寺 ホームページより抜粋）

吉ゾウくん伝説　願いをかなえてくれる「幸せを呼ぶゾウ」

長南小学校校庭の臨時駐車場に駐車し、長福寿寺の紅花畑を通り抜けると長福寿寺境内に入る。寺の前に白い大きな像が一対（雄雌）建てられていた。これが幸せを呼ぶ「吉ゾウくん」と「結愛ちゃん」だ。

吉ゾウくんは、いつ、どのようにして長福寿寺へやって来たのか？それは、それは、今から 430 年ほど前、室町時代の末の頃・・・・・・

当時の長福寿寺學頭は 17 代豪仙學頭（ごうせんがくとう）でした。豪仙學頭は 18 歳の若さで僧正（そうじょう／僧侶の最高位）になる程の名僧でした。また織田信長の焼き討ちに遭い荒廃した比叡山を援助し、根本中堂を再建した素晴らしいお坊様として大変有名だった。豪仙學頭が多くの人々を救い、仏教をひろめることができたのは・・・

・・・実は吉ゾウくんに由来するのです。

ある時、豪仙學頭が、人々の幸せを願い厳しい修行を積んでいました。早朝より護摩修行をしていると、火炎の中に一頭の象が舞い降りてきました。象は古来より仏さまのお使いとされ、願い事を叶えてくれるといわれています。豪仙學頭の前に舞い降りたのも「幸せを呼ぶ吉象」だったのです。

火炎の中から吉象が告げるには「私は人々を幸せにするためにやってきた。私の足をさすれば必ず幸せになれる。

そのことを多くの人々に伝えよ。また、そなた自身にも絶大なる力を授けよう」…と。

これより豪仙學頭は、人々の願いを叶える象「吉ゾウ」を知らしめ、数えられないくらい多くの人々を幸せに導いたのです。

（長福寿寺　ホームページより抜粋）

全国長南会通信　４５号　目　次

1 長南紅花まつり		１頁
2 長福寿寺、吉ぞうくん伝説		２頁
3 我が人生を決定したもの（その２）	中村就一	３、４頁
4 寒風沢島の現況		４、５、６頁
5 会費ありがとうございました。収支報告		７頁
6 長南氏の研究紹介		８頁

我が人生を決定したもの （その２） 中村就一

三重県斎宮の航空通信連隊で四ケ月の教育を受け、最後にこれからの任地の希望を聞かれた。私はフランス映画のファンだったから、迷わずにフランス領インドシナ、現在のベトナムに希望を提出した。

400 名の幹部候補生は任地ごとに中国、満州などとまとまって教育隊を後にして出てゆき、最後に私と三名が残った。聞けば慶応大学生で、希望は仏印だという。

ガランとした兵舎での暮らしは心細くなり、しばらくして連隊本部に出向き聞いた。

「われわれは、どうなっているのでありますか」

「おまえら、希望はどこだ」

仏印と聞くなり「今頃そんなとこ行かれっか］と言われ、どこへでも行けというので、仲間と相談し、東京に行っても連日の爆撃でどうにもならんから、途中の都市がよいとなり、静岡県磐田町にきまった。

磐田の連隊に出頭すると、対米に出撃する部隊の編成中で、歩兵を始め工兵、輸送部隊等から選んだ兵士をセットしているところだったから、おいそれとばかり配属されて、出発した。

ところが京都に着くと、しばらく待機せよとあって、七日ほど留まっていた。することもないので、市内をぶらつく日々だったが、さすがに古都で、戦時中とは思えないたたずまいで、教会のわきを通ると賛美歌が聞こえるという有様。

やっと出発となったが、神戸からはノロノロ運転で、道行く娘さんに手を振ると、兵隊さんがんばって、などと応答できる。

神戸、三宮は爆撃で線路がなくなって応急に線路を作った直後だったのだ。

関門海峡をくぐって九州に出たところで、途中下車となった。

情報は与えられなかったが、指定された二日市で下車して、小学校に駐屯することになった。後で知ったが、タッチの差で沖縄が陥落したのだった。私より二三日前に沖縄に渡った部隊のクラスメイト後藤孝君は帰らぬ人となった。

夏休みだから教室は使い放題で、住み込みの小使いさんと当直の先生がいるだけ。

わが部隊の幹部は、満州帰りの石原中佐部隊長の下に、古参の中村中尉と副官小倉少尉、その他にはごく古い化石的な戦前の少尉数名と見習士官の私で、結局何かやるにも全て私が実行の責任者というわけだから、思いつくままに自由に行動した。

例えば村内を貫く宝満川での水泳大会などだが、ここは農村であることを思い、特に出征兵士の留守宅に兵士を派遣して農業を手伝わせることを思いついた。

毎朝学校を出掛けて各農家に行くのだが、すぐに兵隊を農家に分宿させることとしたから、時間の無駄が無くなり、丁度田植えの時期だったから、農村出身の兵士はもちろん、出征兵士の留守宅では喜ばれた様だ。

そのうちに福岡の第二総軍司令部から電話がきた。

「田んぼで、褌ひとつになって作業している者が貴隊の者と知れた。軍としては困る」というので、それからは褌に階級章をつけることとした。

戦局はいよいよ切迫して、九州が決戦場になるとの声が囁かれ始めた頃に、軍命令が出て、わが部隊は村内の丘陵にトンネル地下陣地を構築することになった。

私は、部隊を三等分して、8 時間労働とし、16 時間は待機時間とした。兵隊は、時間に余裕が出来たから、本人はもちろん宿舎の農家を手伝って喜ばれた。

つづく

謹んでご冥福をお祈りします

寒風沢長南会の会長としてご尽力されました、民宿潮陽館ご主人の長南兼夫さんが、平成 25 年 4 月 13 日、海での仕事中、不慮の事故でご逝去されました。74 歳でした。葬儀は 4 月 17 日、塩竈市白寿殿で取り行われ、長南会から、青宿の武、照光両副会長が参列しました。

兼夫さんの生前のご功績に感謝し、心からご冥福をお祈り申し上げます。

寒風沢島の現況

2013/08/09

左から
長南照光、秀則、
昭子（しょうこ）、武、清
2013/08/09（金）
寒風沢島潮陽館、故兼夫さん遺影の前で。

この後一行は、共同墓地の兼夫さん、和泉守、五輪の塔への墓参、献花をおこなった。

兼夫さんの新盆参りのため 2013/08/09（金）、寒風沢島潮陽館に向かった。塩竈市営汽船 9:30 発に乗り込むと、海水浴客の家族連れが多数乗船しており、浦戸諸島の復興が進んでいる印象を感じた。ただし、そのほとんどは、最初の到着地の桂島で下船。桟橋で、各民宿の送迎車に乗って海水浴場に向かっていった。

桂島から野々島、石浜を経由して、20 分ほどで寒風沢島が見えてきた。

船上から見える島は、2 年前に訪問した時にあった瓦礫はほとんど撤去されており、新築の家も少ないが建築され、被災した家も修理されているようだった。津波に流された桟橋はまだ作られておらず、着岸は 2 年前と同じ漁港方面の仮桟橋だった。

船着き場付近は、復旧工事中で、防潮堤は以前よりかなり高く、5m ほどのものが作られるようである。

潮陽館には、昭子さんが我々の到着を待っており、早速、一同兼夫さんの祭壇にお線香をあげ、昭子さんから兼夫さんの生前のお話や、事故の状況等を聞いた。

潮陽館の軽トラックを拝借し、一行は高台の共同墓地へと向かう。最初に無縁様の五輪の塔付近の除草と清掃、献花を行った。お盆が近付いているためか、島外から墓参に来た人たちから「長南家の方ですか？私も旧姓が長南です。」などと声をかけられ、心が和んだ。

さらに、墓地の奥に進み、兼夫さんのお墓と、和泉守のお墓の清掃と献花を行ったが、お墓は綺麗に維持されていると感じた。

五輪の塔の清掃と献花

共同墓地から見える田んぼは見事に復活して青々としており、海岸や漁港も力強く復旧が進んでいる。津波で流された住宅はまだまだ更地のままで、被災した住民のほとんどは小学校跡の仮設住宅に住んでいるようだ。

寒風沢島の復興は道半ばだと思うが、今回の訪問では、着実に前進していると感じた。そんな中で、兼夫さんにはこれからという時だけに非常に残念でならない。元気で仕事をしていた頃の兼夫さんの姿がふと目に浮かんだ。

和泉守の墓

復活した田んぼ

仮桟橋付近瓦礫処理作業中

昭子さんは、「できるだけ潮陽館の民宿経営を続けるつもり」と頑張っている。

読者の皆様にお願いします。被災した寒風沢島の人々へのご支援、ご協力、ご声援を、できることからお願いします。また、寒風沢島を訪れたときは、和泉守の墓と五輪の塔に足を運んでください。

船から見た潮陽館

名残は惜しいが、一行は 14:08 寒風沢発の汽船で船上の人となった。
仮の桟橋からは昭子さんが手を振っていた。

会費納入ありがとうございました。

長南	一男	北海道	2000	長南	孝幸	福島県	5000	長南 隆 千葉県 2000
長南	一男	北海道	4000	長南	勝幸	福島県	2000	林 武弘 千葉県 2000
長南	昇	北海道	2000	長南	豊	福島県	5000	加藤 栄彦 千葉県 2000
長南	サカエ	宮城県	5000	長南	仁	福島県	6000	森川 剛典 千葉県 2000
長南	勘一	宮城県	4000	荒木	邑仙	福島県	52000	中村 就一 千葉県 2000
長南	政直	宮城県	4000	長南	幸雄	茨城県	2000	長南 克夫 千葉県 2000
長南	和夫	宮城県	3000	長南	武	茨城県	2000	長南 弘美 東京都 4000
長南	征二	宮城県	2000	長南	秀則	茨城県	5000	長南 章彦 東京都 2000
長南	丈夫	宮城県	2000	長南	照光	茨城県	12000	長南 義美 東京都 2000
長南	良彦	宮城県	2000	長南	国男	茨城県	2000	斎藤 武夫 東京都 2000
長南	竹雄	宮城県	10000	長南	信雄	茨城県	2000	長南 充浩 東京都 2000
長南	俊蔵	山形県	2000	長南	新一	埼玉県	4000	長南 恒弘 神奈川県 2000
長南	孝一	山形県	2000	長南	俊春	埼玉県	20000	長南 正道 神奈川県 2000
長南	正	山形県	2000	長南	勇	埼玉県	5000	長南 一夫 神奈川県 2000
長南	利幸	山形県	2000	長南	邦年	埼玉県	4000	西海 清 神奈川県 5000
長南	清	山形県	2000	長南	亘	埼玉県	2000	長南 守 静岡県 6000
長南	吉美	山形県	2000	長南	仁志	埼玉県	10000	白井ヒサエ 愛知県 5000
長南	源一	山形県	2000	長南	恵三	埼玉県	2000	長南 喜善 京都府 2000
長南	儀一	山形県	2000	阪西	りえ	千葉県	2000	長南 忠直 奈良県 2000
長南	恵三	山形県	10000	近藤	忠行	千葉県	2000	

2013/07/22 現在 合計金額 **262,000 円**

収支報告

平成 25 年 1 月 1 日～7 月 31 日

				内 訳	
繰越金額	356,045				
会費入金	262,000	通信 44 号発行費	12,600	現金	21,166
利息	15	郵便振替手数料	5,480	普通預金	248,237
		事務用品費	9,272	当座預金	268,170
		紅花まつり協賛	20,000	合 計	537,573
		香典生花代	31,535		
		雑費	1,600		
収入合計	618,060	支出合計	80,327		
残 高	537,573				

通信44号、45号は、印刷ではなくコピーで、製本は手作業でホチキス留めを行いました。ページ数を減らし、紙はコピー用紙を使用して、コストを削減しました。

今年は年内に、あと1回発行できるようにしたいと思います。皆さんからの投稿をお待ちしています。

300-0301 茨城県稲敷郡阿見町青宿 930
長南秀則

中村就一著「長南氏の研究」在庫あと４冊

資料編含めて 1899 頁
注文は著者に直接連絡してください。
277-0027 柏市あかね町 9-10
中村就一
TEL/FAX xxxxxxxx

目　次

第１　奈良・京都編
　第１章　　菅原氏の発祥
　第２章　　菅原氏の変遷
第２　関東編
　第１章　　平安時代の房総地方
　第２章　　菅原一族の上総国土着
　　１　　長南次郎菅原善智麿
　　２　　熊野神社
　　３　　くれない
　第３章　　千葉氏の興起と長南氏
　　１　　長南小次郎
　　２　　菅原高標
　　３　　千葉氏興る
　第４章　「長南」と「庁南」
　　１　地名における長南と庁南
　　２　氏名における長南と庁南
　　３　長南庄と長南領
　第５章　鎌倉時代の長南氏
　　１　長南七郎顕基
　　２　長南忠春と長南忠清
　　３　長南光重と日蓮
　　４　長南孫四郎常行
　第６章　南北朝・足利時代
　　１　長南常春と庁南武田氏
　第７章　応仁の乱から戦国時代へ
　　１　長南主計助
　　２　長南氏と長福寿寺
　　３　戦国時代
　　４　国府台役と長南七郎左衛門
　第８章　長南一族の流離
　　１　武田信長の進入
　　２　長南氏と里見氏
　　３　長南和泉守の登場
第９章　常陸南部の長南氏
　　１　阿見
　　２　龍ヶ崎
第 10 章　１７世紀以降の房総長南氏
第３　奥羽編
その１　寒風沢
　第１章 長南和泉守の渡来とその生涯
　　１ 寒風沢渡来
　　２ 船世帯
　　３ 寒風沢定住
　　４ 埋立工事
　　５ 廻船問屋を始める
　　６ 栽松事積
　　７ 和泉の死
　第２章 彦和田の長南各系
　　１ 杢之助系
　　２ 定吉系
　　３ その他の彦和田系
　　４ 銀左衛門系
　　５ 庄五郎系
　第３章 清八郎系
　　初代 杢右衛門
　　二代 喜平次
　　三代 喜右衛門
　　四代 喜右衛門
　　五代 清八郎
　　六代 清八郎
　　七代 喜平次
　　八代 清八郎
　　九代 清兵衛
　　十代 清八郎
　十一代 清八郎
　十二代 あい
　第４章 風土記系と清八郎傍系
　　１ 権四郎系
　　２ 清次郎系 . . . . . .